

～ひだまり～

3年3組 学級目標

日進月歩

～全員で、全力で～

第3学年だより

第28号

作文特集号「修学旅行記」～3組～

今回から、修学旅行にまつわる作文特集号を発行していきます。“3年間の集大成”となるよう、実行委員を筆頭に全員で準備をしてきました。東京を飛び出し、奈良・京都を巡った生徒達が、何を感じ、何を考え、何を思ったのか。それぞれの思いをお楽しみください。初回は3組の作文を紹介します。

「大きな成長」

僕はこの修学旅行で学級委員としてみんなをまとめなければならなかった。1日目では、気持ちが浮かれてしまったせいか、みんなをしっかりとまとめることができなかったり、大きなミスをしてしまったりと、正直学級委員としての役割を果たしていなかったと思う。先生から注意を受けることも多々あった。本当にこのままでいいのかと思い、反省していた。

2日目はその反省を活かして行動していこうと思い、気持ちを正して努力していた。1日目よりはうまくできたとは思ったが、でも完璧にはできなかった。漆器体験の後の先生の言葉もあって、あとチャンスは1日しかないと思い、今からじゃ遅いとは思いつつも3日目は必ず大きなミスをしないように行動しようと思った。3日目。今日はもう後がない。1日目、2日目の反省を活かして、後先を考えながら、学級委員としての自覚をもって行動することができ、大きな失敗もすることなく終了することができた。

今回の修学旅行は完璧にできたかと思うと、そうではないと思う。でも、この3日間で、大きく成長できたと思う。

この修学旅行を支えてくれた先生方や関係者の方々、そして、笑顔で見送ってくれた保護者に感謝したい。

裏面にも、もう1作品を掲載してあります。来週の予定もありますので、そちらも併せてご覧ください。

「集大成と今」

中学校の一大行事と言っても過言ではない修学旅行。学びを修める旅行。私は「まとめる側の立場」として、精一杯取り組みました。班長としての立場、実行委員としての立場、室長としての立場。たくさんの責任を抱えた状態で挑みました。実行委員会議では「責任」や、「期待」という言葉をたくさんもらいました。それほど重要だという思いを胸に、さまざまな修学旅行へ向けた活動を行いました。

小ポスターや、夏休み中何回も学校に行って進めた大ポスター。新聞や度々の事前学習など。どれも大変なことばかりでしたが、なんとか形にすることができました。実際に修学旅行に行ってから、休む暇もあまりなく、班員や室員をまとめるので手一杯でした。しおりを何回も開いてはしまいを繰り返し、なんとか班員や室員に指示を出していました。それでもその日の夜に「もう少しこうできたな」「あの指示はもっと最善な物があったな」と思うことばかりで、毎晩今日はどうだったか、明日はどうするかをずっと考えていました。実際、夜の班長・室長会議でも考えさせられることばかりでした。それでも私の班は事前に決めた場所に全て順番通りに回ることができるなど、コース通りの行動をすることができ、協力もできていた方だったと思います。大変なことが多かった分、班員が喜んだり、楽しんでいるところを見るのがとても嬉しく、一番といっても良いほど印象に残っています。

今回の実行委員は大掛かりということもあり、責任と期待とやるべきことの3つ全てが大きく、そして多かったです。それ故、家に帰ってもずっと実行委員の仕事をする日も少なくなかったです。だからこそ、修学旅行が終わった後の達成感や得たことがとても大きかったです。人をまとめることの大変さ。喜んでもらえた時の嬉しさ。実行委員の仲間や班員、室員と協力することの大切さ。などなど多くのことを学ぶことができました。

私は、修学旅行が終わって振り返ってみて、これらは修学旅行や学校生活に限らず、色々な所で大切かつ必要なことだと思いました。これらを今後へ活かすことは決して簡単なことではありませんが、今回の修学旅行や今までの学校生活で培った力を発揮し、中学校生活の集大成として、「今が全て」という気持ちで最後をやり遂げたいです。

【担任の先生から】

修学旅行が成功するために、実行委員の皆さんはもちろん、コース係などそれぞれの係分担において、たくさんの方が事前に準備をしていました。綿密に準備しているからこそ、失敗してもリカバリーできるのです。準備をして、実行して、改善する、自分たちで修学旅行を作るとはそういうことです。ただ「楽しんだ」だけでなく、何かを学ぶことができたなら、確実に成長することができると思います。修学旅行の経験を、これからの中学校生活だけでなく、もっと先の人生の中でも生かしてください。